

## 家畜衛生情報

### 牛ウイルス性下痢・粘膜病（届出伝染病）を防ぎましょう！

#### 最近の県内発生事例

- 今年5月に、妊娠191日の牛が流産し、流産胎子からBVDウイルス遺伝子が検出されました。
- 母牛のBVDウイルス抗体が高いことから、妊娠中にBVDウイルスに感染し流産したと考えられます。

#### 牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）とは

- BVDウイルスに感染すると、発育不良、下痢、呼吸器症状を呈するほか、妊娠牛が感染すると奇形、流産、不受胎等の繁殖障害を引き起こす場合があります。
- 母体内でウイルスに感染した胎子は、産まれても先天異常、発育不良のほか、一部の牛ではPI牛※(持続感染牛)になります。
- PI牛が、粘膜部にび爛、潰瘍等の粘膜病を発症した場合、死亡率は高くなります。

※PI牛とは、一生涯にわたり唾液、鼻汁、糞便、尿、乳汁、精液などからBVDウイルスを排出し続け、感染源になっている牛のこと

#### 予防・対策

- 治療方法はありませんがワクチン接種による予防は可能です。
- ワクチン接種：BVDウイルスは1型と2型があることから、両方の抗原を含むBVD-MD2価ワクチンを定期的に接種してください。
- PI牛の淘汰：感染源となるPI牛を早期に発見し、淘汰することにより、農場内の清浄性を維持してください。
- BVDウイルスの侵入防止：導入の際はBVDウイルスの遺伝子検査を実施して、陰性を確認してください。ヒト、車両、器具等は消毒をした上で農場に立ち入る又は持ち込んでください（飼養衛生管理基準の遵守）。

## 県内・全国の発生状況

	頭数				
	平成21年次	平成22年次	平成23年次	平成24年次	平成25年次
長野県	1	3	0	1	1
全国	106	104	228	189	10

(長野県は平成25年6月24日、全国は平成25年2月28日現在)

県内では、平成11年に最初の届出があり、これまでに10件11頭の届出がありました。

全国では、平成10年に最初の届出があり、近年は毎年200頭前後の発生が届出されています。

## このような症状に覚えはないですか？

- 繁殖成績が良くない
- 発育不良の牛がいる
- 下痢や軟便、呼吸器症状がよくみられる

BVDウイルスは気付かないうちに農場へ侵入し、生産性を低下させている可能性があります。

(上記の症状に必ずBVDウイルスが関与しているというわけではありませんが、担当の獣医師の診察を受けるようにしてください。)

## 対応

### 対応①

農場内の牛にワクチンを接種することにより、万が一BVDウイルスが農場内に侵入しても、被害を最小限にすることができます。

現在、BVD-MD2価を含む混合ワクチンが販売されています。担当の獣医師、地域衛生指導協会及び家畜保健衛生所へご相談ください。

### 対応②

農場内のPI牛を摘発・淘汰してください。

家畜保健衛生所では、PI牛摘発のためのBVDウイルスの遺伝子検査(1,500円/検体)を受け付けています。

検査の実施方法を含めご相談ください。

家畜保健衛生所	電話番号	家畜保健衛生所	電話番号
佐久	0267-62-4123	飯田	0265-53-0439
上田支所	0268-23-1630	松本	0263-47-3223
伊那	0265-72-2782	長野	026-226-0923
県庁園芸畜産課	026-235-7232		

異状の通報  
はこちらへ